開発報告 21006
2021 年 10 月 1 日
フネンアクロス株式会社
開発部

石綿（アスベスト）含有調査について

拝啓
貴社ますますご隆盛のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、ご照会の件につきまして、以下のとおりご回答申し上げます。
よろしくご高配のほど、お願い申し上げます。

敬具

記

開発報告 05012「弊社製品に関する原材料使用状況（報告）」、05013「フネンパイプ外管成分（回答）」で報告のとおり、弊社製品は発売以来、石綿（アスベスト）は一切使用しておりません。

平成 18(2006)年 9 月に労働安全衛生法施行令及び石綿障害予防規則の一部が改正され、規制の対象となる建材の石綿（アスベスト）含有率が 1%超から 0.1%超に引き下げられました。このため不純物として石綿（アスベスト）が混入しているおそれのある天然鉱物を使用した建材やモルタル混和剤等についても、石綿（アスベスト）含有率が 0.1%を超えるものについては、規制の対象となりました。
＊詳細は国土交通省 HP をご参照下さい。

天然鉱物には不純物として石綿（アスベスト）が混入している可能性が示されております。
解体工事を行う際には、「改正石綿障害予防規則」をご確認の上、適切な処置を講じた作業を実施願います。
＊詳細は厚生労働省 HP をご参照下さい。

以上

開発報告０５０１３
平成１７年８月１日
フネンアクロス株式会社
開発本部　開発室

フネンパイプ外管成分（回答）

拝啓　貴社ますますご隆盛のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、ご照会の件につきまして、以下のとおりご回答申し上げます。よろしくご高配のほど、お願い申し上げます。

敬具

記

◎ フネンパイプ（管継手含む）の外管成分

- 普通ポルトランドセメント
- 軽量骨材
  （けい砂・凝灰岩系天然ガラス）
- 無機質繊維
  （耐アルカリガラス・けい酸質等）
- 有機質繊維
  （パルプ・合成繊維等）

フネンパイプ外管の材料組成は以上の通りです。材料組成として**石綿（アスベスト）は一切含んでおりません。**

以上

開発報告０５０１２
平成１７年８月１日
フネンアクロス株式会社
開発本部　開発室

弊社製品に関する原料使用状況（報告）

１．　製品名：耐火二層管フネンパイプシリーズ／同管継手・及び目地材（ＦＴメジ材・ＦＴシール材・ＦＴシールテープ）

２．　調査対象物質：アスベスト（石綿）

◎ 蛇紋岩系

- クリソタイル（白石綿・温石綿）

◎ 角閃石系

- アモサイト（茶石綿）
- クリシドライト（青石綿）
- アンソフィライト（直閃石綿）
- トレモライト（透角閃石綿）
- アクチノライト（陽起石綿）

３．　原料使用状況

上記に記載の弊社製品は、１９９８年（平成１０年）の発売以来、製造において調査対象の物質を原料として一切使用しておりません。

以上

分析結果報告書

依頼者	フネンアクロス株式会社　様
住所	埼玉県秩父市大野原 2773
試料採取日	平成 17 年 8 月 3 日受付
試料名	フネンパイプ
採取場所	――――――
採取区分	提供試料
分析実施期間	平成 17 年 8 月 3 日～平成 17 年 9 月 27 日

発行番号：　M05-3990-001
発行年月日：　平成 17 年 9 月 28 日

東邦化研株式会社
環境分析センター
〒343-0824
埼玉県越谷市流通団地３丁目３番地８
電話　048-961-6161（代表）
FAX　048-961-5111

報告責任者　田中　良雄

分析の結果は、下記のとおりであることを報告いたします。

■ 定性分析

採取場所（試料名）	位相差顕微鏡及びX線回折による定性分析			石綿含有の判定結果		
	判定方法		有無	ｸﾘｿﾀｲﾙ	ｱﾓｻｲﾄ	ｸﾛｼﾄﾞﾗｲﾄ
フネンパイプ	位	1000 粒子中の石綿繊維の 10 繊維以上の有無	無	×	×	×
	X	石綿の回折ﾋﾟｰｸの有無	無			
以下余白						

備　考　提供試料について分析をしたものです。

※　建材中の石綿含有率の分析方法について（平成 17 年 6 月 22 日　厚生労働省　基安化発第 0622001 号）

○：石綿含有試料　　×：石綿含有せず

■ 定量分析

採取場所（試料名）	分析の結果	
	含有物質名	含有率（%）
フネンパイプ	－	－
以下余白		

備　考　提供試料について分析をしたものです。

※　建材中の石綿含有率の分析方法について（平成 17 年 6 月 22 日　厚生労働省　基安化発第 0622001 号）

分析装置：㈱リガク製　自動X線回折装置　［型番：ＲＩＮＴ２２００］

定性分析で検出が認められなかった場合は、定量分析を行っておりません。